

第5回教育カウンセリング学習会を振り返って

テーマ「教室のちょっと気になる子への関わり方～ペアレント・トレーニングの方法を活用したよりよい学級経営を進めるためのヒント～」

ペアレント・トレーニングの考え方を生かして教室にいるちょっと気になる子どもへの関わり方4回にわたって学びました。

充実した学びができて、遠いところから参加してくださった会員の方々に改めて感謝しております。4回にわたる学習会5の振り返りをご紹介いたします。

学習会5－① 令和6年11月9日（土）実施 参加者2名

①のテーマ：子どもの行動を知る（3つに分ける）

振り返り

- ペアレントトレーニングの理論と子どもの行動を3つに分ける視点を中心に学びました。
- ペアレントトレーニングという言葉は知っていたけれど中身はまったく知らなかったの
で、定義や対象者、概要を知ることができて良かったです。また、行動とは何かとい
うところも触れていただき、行動と状態、結果の違いを認識できたことや、行動を3つに
分けること、その行動に対する対応は決まっているということをおさえることができて
良かったです。
 - 増やしたい行動に対する関わり方の具体的な方法や、行動の定義などとても勉強になり
ました。話しやすい雰囲気でも参加させていただきたいです。ありがとうございます。

学習会5－② 令和6年12月14日（土）実施 参加者3名

②のテーマ：注目のパワーを知る

振り返り

- 大切なのは自分が意識して行動すること、というのが響きました。意識していないわけ
ではないけれど、私は他者操作的な意識が多いのだろうなと思ったので、PT 理論的な意
識をして子どもを見ていければ…と思いました。肯定的な注目の種類や「ほめる」の定
義、タイミングのほかに、注意する部分にも触れていただき、知ってはいたけれど忘れ
ていたところだったのでありがたかったです。講義の途中で様々な参考資料を出してい
ただいたのもありがたかったです！
- 発達課題の大切さ、コロナ禍で体験を無くしている子どもたちが、何歳の時に何を失っ
て高校に入ってきているかを把握する必要性を実感しました。
- 肯定的な注目の具体的な種類、褒めるタイミングなど注目する箇所が分かりやすく学ぶ
ことができました。子どもたちと関わることはほとんどないのですが、日々の人間関係
で気にしながら実践してみたいと思います。また次回もよろしくお願いいたします。

学習会5－③ 令和7年1月26日（日）実施 参加者2名

③のテーマ：効果的な指示の出し方

振り返り

今回は効果的な指示の出し方、子どもに指示を出すときのタイミングや言葉かけの具体例
を学びました。ご褒美（惜しげもなく与えられるもの）については私もまだまだ学んでい

かなければならないポイントだと思います。「ほめ言葉100個に挑戦」も慣れないと難しいですね。いざという時つかえるようにストックを増やしておきたいですね。

振り返り

○指示や選択、予告など、定義として言葉を確認しておくというのが新鮮でした。普段使っている言葉ですが、それを相手に伝えるというのがなかなか難しいということが分かりました。それが子どもであれば、子どもが分かる言葉で伝える必要があるので、自分自身がしっかり知っておく、表現できるというのが大切だと思いました。同様に、指示に用いる言葉も短く具体的な言葉をストックして使えるようにしておく必要があるし、褒め言葉もすぐに伝えられるようになじませておきたいと思いました。

また、テクニックの「～したら、…できる」は、もっと理解を深めたい部分でした。「宿題が終わったらゲームができる」というのを自分の子どもにさせていたことがあるのですが、そもそも子どもの目的は「ゲーム」なので、宿題がやつついで終わることが多く、それは私にとっては不本意なのでやめました。「特典」をどのように設定すれば子どもに良い行動が定着していくのか、考えていきたい部分です。

指示に従わせることが目的ではない、というのもしっかり意識しなければいけないと思いました。今、こうして感想を書きながら、「私は自分の指示に従ってほしいのだから…」と思いました。子どもの思いを尊重しながら、より良く生活していけるように見守るというのは難しいですね。

今回も学びの時間をありがとうございました。

○効果的な指示の出し方として CCQ を心がけることの重要さは理解できますが、子どもが小さい時のことを思うとカッとなり怒ってしまうこともありました。でも25%ルールで良いという完璧でなくても大丈夫と思うと気持ちに余裕が持てると思いました。褒め言葉についても聞いているだけで心がほんわか温くなる感じがあり、日々の生活や仕事でも今日の単語を思い出して意識的に使っていこうと思いました。

学習会5-④ 令和7年2月16日(日)実施 参加者1名

④のテーマ：BBCチャートの考え方(作り方・考え方)

今回は子どものよりよい行動を引き出すための行動記録表そしてについて学びました。誰が見ても同じ評価ができる具体的な表が大切ですね。どのような表をつくるか資料に示したポイントをもとにしていきたいものですね。また、制止とペナルティの出し方についても子どもを認めるための手段の一つであることも忘れてはならないことだと思います。

振り返り

○BBCチャートについて、忙しい時間帯に目に見える表があることで、自ら行動しやすい環境を整え、行動がスムーズになり、習慣化しやすいと思いました。親御さんにとって指示的な言葉が少なくなるとお子さんとの関係も良くなるのではないかと思います。ご褒美についても適正な品物や機会というのも継続するために大事だと思いました。現在子どもたちとの関わりを仕事としていない私ですが、先生や他の参加者の方の経験談や現在の学校状況を教えていただき毎回とても勉強になりました。自分が子育てをしているときにこのような子どもの関わり方について学ぶことができればもっと子育てをしやすかったのではないかと思います。

今後子育てに悩む方に会ったときには、今回学んだことをお伝えできればと思います。が、このように勉強できる場があること、相談出来る場所があることをお伝えしたいと思います。

Q&A コーナーでの学び

今回の学習会は前半は講義と演習、後半は Q&A コーナーという雑談のような形式で日頃の感じている疑問やトピックスなど参加した方々のみで情報をシェアするなどの場を設けました。複数の資格・経験などの背景お持ちの方々が集まった学習会。参加人数は1～3人でしたが、充実した時間を過ごすことができました。

この誌面ではくわしくお知らせできませんが、私が20年以上もの間、県外の大学病院小児科の先生方や教育カウンセラー協会の方々から学んできた知見をシェアする場（初披露）もありました。明日から使える考え方や技法をシェアしました。

シェアした情報例をあげますと

- ・ 0歳児から思春期に至る発達課題やその誤学習
- ・ 暴れる子の背景と対応の方針・・・医学的背景、社会環境的背景、心理的背景
- ・ 量的な障害と質的な障害の違いと指導のポイント（ASDは質的な障害ですね）
- ・ 0歳児、1歳児、2歳児、3歳児保育のポイント
- ・ メディア依存と発達障害の類似と相違点（医師が診断をする際の注意点）
- ・ ゲームやメディア依存へ対してどのようなアドバイスが効果的か
- ・ 夫婦げんか（心理的虐待＝面前DV）の後、夫婦がとるべき子どもへのフォロー

これらのテーマはこの後、もっと深めてもよいかもしれませんね。参加者の方々がもっと増えると様々な意見を聞くことができると思います。